

vRealize Automation 7.6 リリース ノート

2020 年 2 月 13 日更新

vRealize Automation | 2019 年 4 月 11 日 | ビルド番号: 13027280

リリース ノートを定期的に確認して、最新の追加情報や更新情報を入手してください。

リリース ノートの概要

本リリース ノートでは、次のトピックについて説明します。

- [新機能](#)
- [国際化](#)
- [システム要件](#)
- [ドキュメント](#)
- [vRealize Code Stream の使用](#)
- [解決した問題](#)
- [既知の問題](#)

新機能

vRealize Automation 7.6 リリースでは問題の修正、および次の新機能が含まれています。

新機能と機能拡張

vRA/vRO 7.6 を使用することで、VMware でのハイブリッド クラウドの運用が容易になります。

- インストールと構成
 - 新しい VAMI ユーザー インターフェイス サマリ ページ
 - 新しい追加 VAMI クラスターの構成可能な健全性アラート
 - SNMP サービス - CPU やメモリなど多くの vRA ノードリソースの監視が容易になりました。リソースをアクティブに監視し、特定のしきい値を超えた場合には SNMP トラップを送信するように構成可能です (API を使用可能)。
- アップグレードの機能拡張:
 - バグ修正と小規模な機能拡張
 - アップグレードですべての構成ファイルをバックアップ
 - API の強化 - API レベルの詳細な進捗状況レポート
 - アップグレード フローの設定が向上しました。一部の手順を後で実行できるように設定可能です
- カスタム フォームの機能強化 - vRA での申請フォームのカスタマイズと強化を希望するお客様に、高度なレベルの柔軟性を提供
 - データグリッドの機能強化 - ブループリント定義のディスクは、行が追加、削除、または編集されたときに、読み取り専用、セル検証、フィールド更新になります。
 - データグリッドの機能強化 - 行が追加、削除、または編集された際のセル検証とフィールド更新を追加
 - マシン ディスク - 統合ブループリントで設定されているすべてのディスク エントリ/値は、カスタム フォーム ユーザー インターフェイスには表示されません。ただし、[送信] をクリックすると、要求データに必ず追加されます。
 - デュアル リスト セレクタ コンポーネントを追加しました
 - 複雑なオブジェクトに対して複数のセレクタ コンポーネントを追加しました
 - リンク コンポーネントを追加しました
- NSX の統合 - NSX-V から NSX-T への移行をサポート
 - [NSX-V 向けオンデマンドプライベートネットワーク](#)
 - [単一の vCenter Server 上で異なるクラスターに構成された NSX-T と NSX-V をサポート](#)
- vRO ユーザー インターフェイスの強化 - vRO を使用してワークフローを作成する際のユーザー エクスペリエンスを向上
 - Web Client での設計、コンテンツ管理、トラブルシューティング全般への機能強化 (詳細については、vRO の新機能とリリース ノートを参照)

VMware の製品での設計、構築、管理、自動化、パフォーマンス監視、セキュリティ強化、拡張性については、VMware の機能強化のページをご覧ください。

NEW: ポートとプロトコル ツール

新しいポートとプロトコル ツールを使用すると、さまざまな VMware 製品とその組み合わせのポート情報を単一のダッシュボードで表示できます。また、ツールから選択したデータをエクスポートしてオフラインでアクセス可能にすることもできます。ポートとプロトコルは、現在次の製品をサポートしています。

- vSphere
- vSAN
- NSX for vSphere
- vRealize Network Insight
- vRealize Operations Manager
- vRealize Automation

このツールは、<https://ports.vmware.com/> で入手できます。

国際化

vRealize Automation 7.6 は、次の言語で使用できます。

- 英語
- フランス語
- ドイツ語
- スペイン語
- 日本語
- 韓国語
- 簡体字中国語
- 繁体字中国語
- イタリア語
- Russian
- オランダ語
- ブラジルポルトガル語

各製品でサポートされている言語については、『[VMware Product Globalization Guide](#)』を参照してください。

システム要件

サポート対象のホストオペレーティングシステム、データベース、および Web サーバについては、『[vRealize Automation Support Matrix](#)』を参照してください。

ドキュメント

vRealize Automation 7.6 のドキュメントは、VMware Docs にある「[VMware vRealize Automation](#)」を参照してください。

インストール

前提条件とインストール手順については、VMware Docs にある「[vRealize Automation のインストール](#)」を参照してください。

注: クラスタへの参加の検証エラーに対処については、ナレッジベースの記事 [KB58708](#) を参照してください。

アップグレード

一般的なガイダンスについては、VMware Docs にある「[vRealize Automation のアップグレード](#)」を参照してください。

vRealize Automation 6.2.x からのアップグレードの準備

vRealize Production Test Upgrade Assist Tool は、vRealize Automation 6.2.x 環境を分析してアップグレードに関する問題を引き起こす可能性がある機能構成を特定し、使用環境のアップグレード準備ができていないことを確認します。このツールおよび関連ドキュメントをダウンロードするには、VMware vRealize Production Test Tool の[製品のダウンロード](#) ページに移動します。

vRealize Code Stream の使用

vRealize Automation 環境で vRealize Code Stream を使用するには、vRealize Code Stream ライセンスを保有している必要があります。

詳細については、vRealize Code Stream 情報センターの「[vRealize Code Stream Installation](#)」および「[Apply a vRealize Code Stream License to an](#)

詳細については、vRealize CODE Stream 情報センターの「[vRealize CODE Stream Installation](#)」および「[Apply a vRealize CODE Stream License to an Appliance](#)」を参照してください。

解決した問題

以下の問題は、本リリースで修正されています。

- IaaS の自動アップグレード中に、upgrade-demまたは upgrade-agent コマンドが失敗するコマンドの結果は次のようになります。結果：サービス名に無効な文字が含まれているか、空白であるか、または長すぎます（最大長 = 80）。また、管理エージェント All.log ファイルに同じエラーが見つかりました。記載されているサービスの名前が 80 文字を超えています
IaaS での Windows サービスの処理に使用する Microsoft .Net API では、Windows サービス名に 80 文字の制限があります。ただし、実際には OS で 256 文字の長さが許可されています。サービスを再開すると、DEM/DEO/エージェントのアップグレードの最後でこの問題が発生します。

サービス名を短いものに変更する必要がありますが、Windows コマンドラインツール/API では表示名を変更することはできるものの、サービス名は変更できません。この問題はサービスを再インストールすることで回避できます。具体的には、サービスをアンインストールしてから、https://vami_host:5480/installer の VAMI インストール ページから IaaS インストーラをダウンロードします。それぞれの IaaS ホスト上でインストーラを実行し、適切な名前前でサービスをインストールします。インストール時に各 IaaS サービスでは、入力した名前の前にプリフィックスが自動的に指定されることに注意してください。

サービスに応じて、プリフィックスは次のとおりです。VMware DEM-Worker、VMware DEM-Orchestrator、VMware vCloud Automation Center Agent。注：名前を変更するために IaaS エージェントを再インストールする場合は、対応するエンドポイントの名前も vRA で変更する必要があります。

- vRealize Automation 7.3 以前のバージョンからのアップグレード後、Get Details Form API 呼び出しを使用するアプリケーションの動作が停止する

vRealize Automation 7.3 以前では、カタログ サービス API GET /api/consumer/requests/{id}/forms/details を使用して取得された XaaS 要求プロパティの次のリストにスペルミスがありました。

- "vco.execurion.state"
- "vco.execurion.business.state"
- "vco.execurion.current.activity.name"
- "vco.execurion.start.date"
- "vco.execurion.end.date"
- "vco.execurion.error.details"

vRealize Automation 7.3.1 では、「execurion」が「execution」に修正されました。以前のスペルで XaaS 要求プロパティを使用し続けていたアプリケーションは動作を停止しました。

回避策：スペルミスのある XaaS 要求プロパティにコンテンツが依存しており、vRealize Automation 7.3.1 以降を実行している場合は、以下のスペルで現在の XaaS 要求プロパティを使用するようにアプリケーションをアップデートします。

- "vco.execution.state"
- "vco.execution.business.state"
- "vco.execution.current.activity.name"
- "vco.execution.start.date"
- "vco.execution.end.date"
- "vco.execution.error.details"

- vRealize Automation 7.5 クラスターのインストールが join-va (クラスタへの参加) ステップで失敗する

2 台または 3 台の仮想アプライアンスを使用して vRA 7.5 クラスタの新規インストールを実行すると、join-va (クラスタへの参加) ステップで「validation failed」が報告されます。

「retry failed」をクリックしないまま最大 15 分程度待つと、ステータスは最終的に「successful」に変化し、インストールは先に進みます。

これは、ユーザー インターフェイス ウィザードのタイムアウトが短すぎる (30 分) ことが原因で、参加操作が 30 分以上かかった場合に失敗となることがあるためです。

ナレッジベースの記事 [KB58708](#) を参照してください。

- 製品インストール ウィザードの「Retry All IaaS」機能が「Validation failed」ステータスで失敗し、次のようなメッセージが [説明] フィールドに表示される：「同じキーの項目がすでに追加されています」。

これは、vRealize Automation に影響する既知の問題です。

この問題の回避策は、埋め込み vPostgres データベースに対して SQL update 文「update cluster_commands set output=" where type like "%install%";」を実行してから、再度「Retry All IaaS」処理を実行することです。

- IE11 および Edge ブラウザではインストール後のアクション メニューの一部が表示されない
展開のサブマシンが 1 台または 2 台だけの場合、IE11 および Edge ブラウザではインストール後のアクション メニューの一部が表示されません。

回避策：アクション リストの一部が画面に表示されていない場合は、スクロールでリスト全体にアクセスできます。Firefox または Chrome ブラウザを使用することもできます。

- バージョン 7.5 へのアップデートまたは移行後に、起動、停止、再起動などのインストール後の操作が Azure マシンに表示されない
バージョン 7.5 へのアップデートまたは移行後に、起動、停止、再起動などの操作が表示されません。

バージョン 7.5 から 7.6 へのアップグレードまたは移行後に、起動、停止、再起動などの操作が実行されません。

回避策: ナレッジベースの記事 [KB58864](#) を参照してください。

- [カスタム フォーム] のバインド フィールドとして [サブテナント ラベル] を使用すると、デザイン ユーザー インターフェイスが動作しなくなる
ユーザー インターフェイスのカスタム フォームでバインド フィールドとして [サブテナント ラベル] を使用すると、バインドが [テナント ラベル] に戻されます。

[カスタム フォーム] ユーザー インターフェイスで [サブテナント リファレンス] を代わりに使用します。[カスタム フォーム] を yaml 形式でエクスポートし、適切なバインドを追加して yaml ファイルを変更し、フォームを再インポートすることもできます。

- vRA モードで [ビジネス マネジメント] タブにアクセスすると、「Unable to authenticate with OAuthToken!」例外が発生する
vRA モードでは、vRA でユーザー セッションが期限切れになると、[ビジネス マネジメント] タブに以下のメッセージが表示されます。

```
org.springframework.security.authentication.BadCredentialsException: Unable to authenticate with OAuthToken!  
The token is expired.
```

回避策: 一度ログアウトしてから再度ログインします。

- アップデートまたは移行を実行すると、Azure 仮想マシン フォームの詳細が表示されなくなる
vRA 7.x から 7.5 にアップデートまたは移行を実行すると、Azure 仮想マシンの既存のフォームが空白になります。

回避策: ナレッジベースの記事 [KB58864](#) を参照してください。

- vRA 7.5 にアップグレードすると、[予約] のストレージ グリッドでポピュレートされない
vRA をバージョン 7.5 にアップグレードすると、[予約] のストレージ グリッドでポピュレートされません。

回避策: コマンドラインまたは vRealize Automation のアプライアンス管理インターフェイスから VMware vCloud Automation Center サービスを再起動します。

- ポータル サービス API の削除

次のポータル サービス API が削除されていました。

- 使用量
- チャージバック
- 再利用
- CSV、PDF などの形式でのレポートのエクスポート

- vRO 用の setenv.sh ファイルによるカスタム アップデートがアップグレード後にオーバーライドされる

vRO 用の setenv.sh ファイルによるカスタム アップデートは、アップグレード後にオーバーライドされます。このファイルは /usr/lib/vco/app-server/bin/setenv.sh にあります。 必要に応じてアップグレード後に値を更新し、vco-server を再起動して変更を適用します。

既知の問題

既知の問題には、次のトピックが含まれます。

- [インストール](#)
- [アップグレード](#)
- [以前の既知の問題](#)

インストール

- **New:** vRA のインストールでは、IIS の構成の問題を修正できない。

Windows 2019 が IaaS-Web コンポーネントの展開に使用されている場合、vRA インストールで IIS 構成の問題を修正することはできません。

回避策: Windows 2019 に vRA を展開する場合は、ダウンロード サイトで入手できる IaaS 管理エージェントの更新バージョンを使用してください。

アップグレード

- **New:** vRA 7.6 アップグレードの事前チェックが、IIS サーバが応答しない状態で失敗する。

IaaS インストーラを使用して手動で IaaS ノードをアップグレードすると、前提条件チェックが失敗し、「IIS Server」チェックが「Not OK」ステータスになり、次のエラーが表示されます。"The IIS Server is installed and running, but does not respond."

回避策: https://<web_node_fqdn>:<port> を参照して、想定されるポートで IIS がアクセス可能かどうかを確認します。IIS が動作していて、それが唯一失敗している前提条件チェックの場合は、前提条件の確認をバイパスして続行します。

- バージョン 7.1 からの自動アップグレードでは、管理エージェントのアップグレードに失敗することがあります。

7.1 より前のバージョンからアップグレードする際に管理エージェントのアップグレード手順で使用する VMware の署名証明書が期限切れになっています。検証により、この証明書が IaaS ノードにインストールされないため、管理エージェントのアップグレードは続行できません。

「/opt/vmware/var/log/vami/updatecli.log」に、スクリプト「/etc/bootstrap/preupdate.d/00-00-03-upgrade-management-agents」の実行中に、以下のようなエラーが発生する: 以下のノードに VMware 証明書がインストールされませんでした。管理エージェントが稼働中で、仮想アプライアンスに接続していることを確認してください。

1. 各 IaaS ノードにログインします。
2. VAMI ダウンロードページ(https://<va_hostname>:5480/installer)から管理エージェント インストーラの MSI ファイルをダウンロードします。
3. ファイルを実行し、管理エージェントを手動でアップグレードします。
4. SSH でプライマリ仮想アプライアンスに接続し、「touch /tmp/do-not-upgrade-ma」を実行して管理エージェントのアップグレードをバイパスします。
5. VAMI の [更新] タブから、自動アップグレードを再度実行します。

詳細については、[ナレッジ ベースの記事 67750](#) を参照してください。

- **Updated:** アップグレード前、すべてのアプライアンスで vco-configurator サービスが実行されている場合、vRealize Automation をバージョン 7.6 にアップグレードすると、vco-configurator サービスがすべてのアプライアンスで実行されなくなる
vRealize Automation をバージョン 7.6 にアップグレードすると、vco-configurator サービスがすべてのアプライアンスで実行されなくなります。その結果、vRealize Orchestrator 構成インターフェイスを使用できません。
- 自動アップグレードが、管理エージェントのアップグレードのフェーズで、1 つ以上の管理エージェントがアップグレードに失敗したことを示して断続的に失敗する。VAMI の [更新] ページに、次のようなエラーが表示される。
「以下のノードで管理エージェントがアップグレードされませんでした。管理エージェントが稼働中で、仮想アプライアンスに接続していることを確認してください。」
VAMI クラスター ページで、上記のエラーでリストされる IaaS マシンが、管理エージェントの健全性チェックの間隔 (デフォルトでは 30 秒) を超える時間接続されていない
管理エージェントがアップグレードに失敗した IaaS マシンの MSI アップグレード ログを調べると、次のようなエラーが記録されている。
「エラー 1921: サービス「VMware vCloud Automation Center 管理エージェント」(VMware vCloud Automation Center 管理エージェント)を停止できませんでした。システム サービスを停止する適切な権限があることを確認してください。」
管理エージェントのアップグレード手順で発生したデッドロックが原因で、MSI アップグレード プロセスが管理エージェント サービスを必要な時間内に停止させることができず、タイムアウトになり、管理エージェントは最終的に停止状態のままになります。

<https://kb.vmware.com/s/article/66541>

構成とプロビジョニング

- Firefox ブラウザを使用してブループリントを作成または編集する際には、[テンプレートのクローン作成] の仮想マシンの最大ストレージの値を手動で入力する必要がある
Firefox でのブループリントの編集時、仮想マシンのビルド情報で [テンプレートのクローン作成] が選択され、赤くマークされて強調表示された後は最大ストレージの値が [マシンリソース] タブで自動入力されません。

最大ストレージの値は手動で入力する必要があります。
- リースの変更後のアクションで承認が実行されず、リースの変更アクションが承認を待機せずに進行してしまう
承認が要求されたリースの日数の条件に基づくとき、たとえば、「サービス カタログ - リソース アクション申請 - リースの変更 - 展開/マシン」のようなポリシー タイプを使用する承認ポリシーの場合、承認はリースの日数を満たす句に基づいて要求され、カタログ資格のポリシー タイプと関連付けられます。マシンのリースを変更する際にマシンをプロビジョニングすると、アクションは承認の呼び出しなしに処理されます。

回避策: リースの変更で、リース日数の句を追加せずに「常時」を使用します。
- ASD vSphere エンドポイントの更新に失敗する
vRA で ASD vSphere エンドポイントを更新すると、「instanceToUpdate」フィールドの値が正しくないために失敗します。
- クラスタ内に含まれていない単一ホストを含む予約から仮想マシンをプロビジョニングすると、仮想マシンのパワーオンに失敗します。
クラスタに含まれていない単一のホストを含む予約からプロビジョニングすると、仮想マシンはパワーオンしません。

回避策: ホストを既存のクラスタに移動するか、ホストを含む新しいクラスタを作成します。
- **New:** Firefox 67 ブラウザで XaaS タブがロードされない
Firefox ブラウザ バージョン 67 を使用している場合、[デザイン] タブの XaaS タブがロードされません。

回避策: 以下のオプションがあります。
 - 別のブラウザを使用
 - Firefox 67 で u2f 機能を無効にする
 - 別のバージョンの Firefox を使用

以前の既知の問題

以前の既知の問題のリストを表示するには、[ここ](#)をクリックします。